

井戸水でのみずあそび

月津こども園では今年度から園庭で井戸水ポンプが使用できるようになり、子どもたちはポンプの使い方を学びながら水あそびをたくさん楽しみました！井戸水を使うことで、**水利用を効率化**し、できる限り水資源を守るようにしています。



布おむつ・さらし

月津こども園では布おむつを使用しています。おむつかぶれしにくく、デリケートな赤ちゃんの肌にも優しいです。また洗濯することで再度利用できるのがゴミが出ません。しかし、水分を含むおむつの焼却は焼却炉の温度を下げてしまい、燃えやすくするために助燃剤を使うのでコストがかかっているそうです。また**二酸化炭素やマイクロプラスチックの問題**もあります。“紙”と言っていますが**素材の半分以上は高吸収性ポリマーなどのプラスチック**なのです。家庭でも毎日布オムツ！は大変かもしれませんが園で過ごす平日の日中だけでも布オムツにすることで、紙オムツの使用料を減らすことで未来の子どもたちの環境を守っていかれたらと思います。



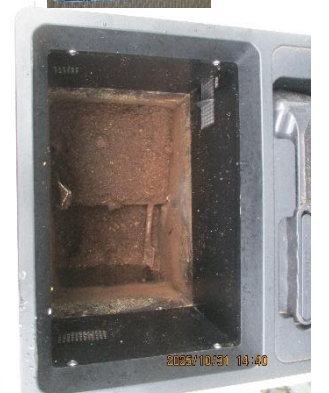
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



おしぼりの再利用



ひよこ、たんぽぽ組は食事後プールのおしぼりを使用して口や手をきれいにしています。使用したおしぼりはピューラックスの消毒液できれいにした後、切ってトイレで保管しています。そうすることでトイレのバケツやオムツシートの消毒時にピューラックス液をつけて拭く時に再利用することができます。



太陽光発電システム

7番目の「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」では、世界中で電気を使えない7.3億人の人々に**電気を届けて暮らしを豊かにすること**が目的です。

温室ガス効果排出量を抑えるためには、先進国が電気供給を行いつつ化石燃料の使用を減らすことがカギとなります。

13番目「気候変動に具体的な対策を」では地球温暖化・気候変動の原因である温室効果ガスを削減するのが目的です。

火力発電といった発電方法から**温室効果ガスを排出しない再生可能エネルギーへの移行**が必要とされています。



非常用コンセント
子育て支援室にあります。停電時に太陽光で発電した電力を使用します。



電力の使用料を確認しています。

コンポスト「げんきくん」

日本の家庭から出る生ごみの量は、年間約1200万トンとされています。生ゴミは約80%が水分なので、焼却時にたくさんのエネルギーを必要とするにも関わらず、まだまだ多くの人が捨てる事に時間とエネルギーを費やしているのが現状です。コンポストを利用すれば、野菜くずや果物の皮などといった生ごみが数週間ほどで栄養価の高い堆肥へと生まれ変わります。

月津こども園では、おやつや給食で出た生ごみはコンポストに入れ堆肥にしています。コンポストでできた堆肥は**食育活動でもある野菜づくりの肥料として活用**されています。

フードロスの削減は、食べものが作られている過程で使われる資源を大切にすることにつながります。生ごみを堆肥に循環させることは食べ物への再投資にもなります。

